

# 琉球大学学術リポジトリ

## 「辻遊郭」に見る近代沖縄芸能史研究： 遊郭、ジュリ、芸能

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-10-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 与那覇, 晶子, Yonaha, shoko メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/35405">http://hdl.handle.net/20.500.12000/35405</a>

様式第7号

学 位 論 文 要 旨

学位論文題目

辻遊廓に見る近代沖縄芸能（史）研究—遊廓、ジュリ、芸能

琉球大学大学院  
人文社会科学研究科

比較地域文化専攻

学生番号 108092A

氏 名 与那覇 晶子

本博論はこの間、沖縄芸能史の中であまり検証されてこなかった「近代沖縄芸能の母胎」としての遊廓に焦点を当てた。正史『球陽』や『琉球国由来記』に記載されているように、1672年、摂政羽地朝秀が辻、仲島に遊里を公設して以来、272年間琉球・沖縄に遊里（遊廓）は実在した。

この論稿では、遊里（遊廓）を中心に据えて、ジュリと彼らが担った芸能を近世から近代にかけて、『琉球・沖縄芸能史年表』、『沖縄県史』、『那覇市史』、『沖縄の遊廓』『新聞』、琉歌、絵画、写真、そして映像も含めた史（資料）などを検証し、主体としてのジュリの芸能、さらに表象されたジュリの芸能を、遊廓をめぐる琉球・沖縄社会の諸相の中で捉え返し、沖縄芸能史の中に確かと位置づけることを目的とした。

伊波普猷の『沖縄女性史』、中でも「古琉球における女子の位置」や「尾類の歴史」は、沖縄女性史の金字塔だが、伊波が大正初期に物したこれらの論稿を弁証法的に止揚することをまた一つの目標にした。それは伊波が尾類（ジュリ/ゾリ）をギリシャ・アテネのHetaire（芸妓）に比喻する一方で醜業婦と記述する遊廓の女性たちの多様性（かつ主体性）をとらえることによって、必要悪とされた遊廓が孕んでいた近代沖縄芸能の豊穡さを、外部からの眼差し、内からの眼差し、そして近代に新たに創造された雑踊などの琉球舞踊、沖縄芝居、そして民謡の中から浮き彫りにすることを目標にした。

ジュリという、貧困ゆえに遊廓に売られ蔑まれた女性たちが、琉球・沖縄の家族制度を補完する形で、外からやってきた「まれびと」を歓待し、異なる人間や文化の媒体になっていったその身体性と彼らが担った芸能の力（文化力）がもたらしたものは、実は近世琉球において尊重され、近代においても重要な位置を占めたことが明らかになった。遊廓やジュリの芸能そのものが近代沖縄芸能の母胎になったと云えよう。祭祀芸能、宮廷芸能について遊廓の芸能はその独特な場において2、3000人の女性たちが担った沖縄芸能の第三極をなした、というのがこの論文の結論である。

遊廓、ジュリ、芸能は切っても切れない関係にある。そして全く否定できないのはジェンダーの位相である。筆者が女性であるということは必然的に沖縄社会におけるあるいは世界の中の女性の立ち位置、社会の中のジェンダーを意識せざるを得なかった。戦後、沖縄の一般女性の芸能進出の礎は、戦前の遊廓の女性たちが築いたと言えよう。芸能（芸術）の力は生きる力、コミュニケーションの媒体、そして人間として己を澄ます（精神を浄化する）力なのだと言えよう。

---

---